

# 図画工作科 学習指導案

第1学年

I 題材 チョッキン ペタペタ ふしぎなえ

II 考察

1 題材観

(1) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

感じたこと、想像したこと、見たことを絵に表す。

【A表現(2)】

(2) 培われる主な資質・能力

- ・表したいことを表すことに関心をもち、思いのままに取り組もうとする態度
- ・感じたことや想像したことから、表したいことを見付けたり、形や色などを考えたりする力
- ・手や体全体を働かせながら、材料や用具を使うとともに、自分の表したいことを工夫して表す力
- ・感じたことを話したり、聞いたりしながら、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付く力

(3) 題材の価値

本題材は、白い紙を自由にはさみで切り、切ってできた形から表したいことを見付けて黒い紙に貼り、思いのままに絵に表す学習である。その価値は以下のとおりである。

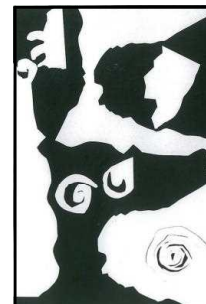
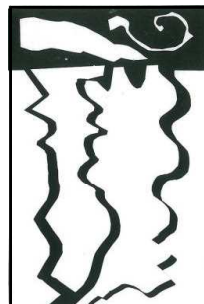
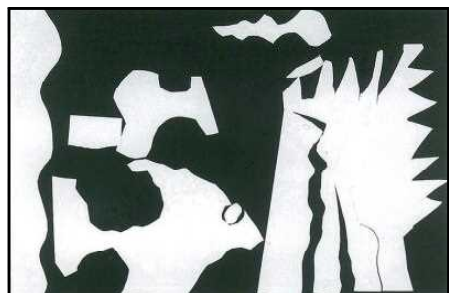
自由に紙を切って、様々な形をつくる活動は、それ自体が子どもたちにとって楽しい活動である。そのため、紙を切ることや切ってできた形、紙を切って並べることに興味をもち、思いのままに絵に表す活動に取り組むことができる。

本題材では、白と黒の紙を用いることで明暗の差から形が捉えやすくなるため、白い紙をはさみで切ってできた形を基に見立てたり、選んだり、組み合わせたりしながら表したいことを思い付いて、切ってできた形の並べ方を自由に考えることができる。

また、紙は子どもたちにとって身近で扱い慣れた素材であり、加工が容易である。そのため、自分のイメージに合う絵になるように、様々な向きで見たり、紙の切り方や切ってできた形の並べ方を工夫して表すことができる。

さらに、素材や色が限定されていることで、形や並べ方の特徴に目が向きやすい。そのため、自分や友達作品を見比べて感じたことを話し合うことで、同じ形でも人によって様々な見方ができることや、切ってできた形や切った紙の並べ方の面白さに気付くことができる。

<作品例>



以上のように、紙を自由に切ってできた形や並べ方を楽しみながら思いのままに絵に表す活動を、子どもたち自身が試行錯誤しながら進めることができるような学習材を設定した。その価値は以下のとおりである。

ケント紙は、画用紙に比べて堅さがあり、はさみで切る際、手に切る感覚がよりはっきりと伝わるため、切る感覚を意識しながら楽しんで切ることができる。また、白ケント紙を黒ボール紙に貼り付けることで、白と黒のコントラストの強さから、形そのものの面白さに気付くことが容易である。さらに、ケント紙は表面が滑らかであるため、貼り直しのできるスティック糊と、表面が滑らかで丈夫な黒ボール紙と組み合わせることで、子どもたちが、自分のイメージに合わせて、何度も形やその組合せを見直して、選んだ形の並べ方を工夫することができる。

#### (4) 今後の学習

ここでの学習は、2年「紙はん画に ちょうせん」での、紙の重なりによる版表現の特徴や表現技法を知り、部品の高さや重ね方を工夫して単色の紙版画に表す学習へと発展していく。

#### (5) 共通事項との関連 ※指導と評価の計画参照

#### 2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、1年「なんだろう？このかたち」において、紙をちぎってできた形から表せそうなものを考え、ちぎった紙の形や色を生かして絵に表す学習に取り組んできた。この学習の中で、明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ・子どもたちは、くしゃくしゃにした紙を手で少しずつちぎる感覚を楽しみながら、思いのままに絵に表す活動に取り組むことができた。このような子どもたちが、紙をはさみで切る心地よさを感じながら思いのままに絵に表すことができるよう、堅さのあるケント紙を自由に切る活動を設定する。
- ・子どもたちは、ちぎった紙の向きやちぎり方を変えたり、ちぎった紙の形や色を見立てたりしながら表せそうなものを考え、自分の表したい絵を思い付くことができた。このような子どもたちが、できた形からイメージを膨らませ、表したいことを思い付くことができるよう、紙を自由に切ってできた形をグループで見合い、形の特徴を伝え合いながら1つの箱に集める活動を設定する。
- ・子どもたちは、自分の描きたいものに合わせて、できた形にさらに紙を貼り足したり、パスで描き足したりして、工夫して表現することができた。このような子どもたちが、自分の表したいことに合わせて、選んだ形の並べ方を繰り返し試しながら工夫して表現することができるよう、貼り直しのできるスティック糊と表面の滑らかな白ケント紙、黒ボール紙を学習材として設定する。
- ・子どもたちは、自分や友達の作品の、形を生かした面白さや、表し方の工夫について気付いたことを友達と話し、作品を楽しんで見ることができた。このような子どもたちが、自分や友達の作品を楽しんで見ながら、形や形の並べ方の面白さについて気付くことができるよう、できた作品とその題名を友達と紹介し合う活動を設定する。

### Ⅲ 目標及び評価規準

#### Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

#### Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい グループで集めた様々な形の白ケント紙を、自分の思いに合うよう、切ったり、並べたりして黒ボール紙に貼り、工夫して絵に表す。
- 2 準備 白ケント紙 黒ボール紙 スティック糊 はさみ 学習プリント 活動中の写真

3 展 開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）
<p>1 本時の活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白と黒で形がはっきり見えるな。形をよく見てつくりたいな。</li> </ul> <p>2 自分の表したいことに合わせて、できた形を切り直したり、並べたりしながら、できた形を糊で貼り、絵に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ギザギザに切った形が面白いな。波にも見えるし、ワニの歯にも見えるな。</li> <li>・ギザギザが2つあれば、ワニの口ができそうだな。探してみよう。</li> <li>・2つの形をワニの口みたいになるように貼ってみたよ。</li> <li>・友達のつくったギザギザの紙を使ってみたいな。</li> <li>・もっと口を大きく開けたワニになる様にしたいな。もう一度貼り直してみよう。</li> <li>・この丸い形でワニの目がつくれそうだな。</li> <li>・貼ってみたら、目が小さいな。強そうなワニになるように大きな丸い形を探そう。</li> <li>・ワニの目が真っ白になっちゃうから、グルグルに切ってみよう。</li> <li>・貼ってみたら、強そうなワニになってきたな。今度は、ワニの背中をつくろう。</li> <li>・ごつごつした形になる様に、紙を重ねて貼ってみたら、いい感じになってきたよ。</li> <li>・黒い部分が多いから、もっと白い部分を増やしたいな。べろもつくってみよう。</li> <li>・ギザギザの口と、大きくてグルグルの丸い目が強そうで、気に入ったよ。</li> </ul> <p>3 できた作品に題名を付け、友達と紹介し合い、本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の作品は、ギザギザが重なって波みたいに見えるな。海の感じがするよ。</li> <li>・白と黒しか無いけど、いろいろなものに見えて、楽しい絵ができたよ。</li> </ul>	<p>○絵に表すという学習の見通しをもてるよう、前時につくった形を紹介しながら、黒ボール紙の上にスティック糊で貼ることを演示する。</p> <p>☆自分の表したいことに合わせて、選んだ形の並べ方を繰り返し試すことができるよう、貼り直しのできるスティック糊と表面の滑らかな黒ボール紙を用意する。</p> <p>☆自分や友達のつくった形や作品、発言などを参考にして自らの表現を見直し、新たなイメージをもつことができるよう、グループで集めた形の中から使いたい形を選び、絵に表す活動を設定する。</p> <p>○つくった形や作品について、子どもたちが自由に話すことができるよう、グループで集めた白ケント紙を入れた箱の周りに、使えそうな形を並べるよう促す。</p> <p>○形を生かして表したいことを思い付くことができるよう、前時にグループごとに集めた形を見て選んだ形から、できそうな絵について問いかける。</p> <p>○自分の作品を見直しながら、自分のイメージを明確にすることができるよう、つくりたい形や、その理由について問いかける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">紙を自由に切ってできた形の特徴を捉え、思いに合った形になるように、紙の切り方やできた形の並べ方を変えている。</p> <p style="text-align: center;">&lt;行動・発言・作品（3）&gt;</p> </div> <p>○活動を振り返ることができるよう、これまでの活動の様子を記録した写真を提示する。</p> <p>○形や形の並べ方の面白さに気付くことができるよう、自分の作品の題名の意図や、自分や友達の形の並べ方の工夫について、発言している子どもを賞賛する。</p>

指導と評価の計画（全2時間）

目標	紙を自由に切ることを楽しみながら、表したいことを見つけて思いのままに絵に表す。			
評価 規準	(1) 紙を切ってできた形や、組み合わせた形から表したいことを見付け、絵に表そうとしている。 (2) 紙を切ってできた形を基に、表したいことを思い付いている。 (3) 表したいことを表すために、紙の切り方やはさみで切ってできた形の並べ方を工夫している。 (4) 自分や友達の商品から、紙を切ってできた形や形の並べ方の面白さを感じ取っている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）	評価項目＜評価方法（観点）＞
であう  ひろげる・あらわす  ふりかえる	1  1	○白い紙を自由に切り、様々な形をつくり、紹介し合う。  ＜紙を集める箱＞  ○白い紙を切ってできた形を黒ボール紙に貼り絵に表す。 （本時）  ＜箱の中から選ぶ＞      ＜形を組み合わせる＞  ○できた作品に題名を付け、友達と紹介し合う。  ＜あめふり かたつむり＞      ＜はっばとかたつむり＞	○紙を切る心地よさを感じることができるよう、堅さのあるケント紙を用意する。  ○できた形の面白さに気付き、イメージを膨らませることができるよう、思いのままに紙を切ってできた形をグループで見合い、1つの箱に集める活動を設定する。  ☆自分の表したいことに合わせて、選んだ形の並べ方を繰り返し試すことができるよう、白ケント紙を貼って絵に表す際、貼り直しのできるスティック糊と表面の滑らかな黒ボール紙を学習材として設定する。  ☆自分や友達のつくった形や作品、発言などを参考にして自らの表現を見直し、新たなイメージをもつことができるよう、グループで集めた形の中から使いたい形を選び、絵に表す活動を設定する。  ○形や形の並べ方の面白さについて気付くことができるよう、友達とできた作品について自由に紹介し合う活動を設定する。	◇紙を様々な切り方で、繰り返し切っている。 ＜行動・発言（1）＞  ◇紙をはさみで切ってできた形を様々な向きで見直したり、面白いと思う形を選んだり、思い付いたことを友達に伝えたりしている。 ＜行動・発言（2）＞  ◇紙を自由に切ってできた形の特徴を捉え、思いに合った形になるように、紙の切り方やできた形の並べ方を変えている。 ＜行動・発言・作品（3）＞  ◇自分や友達の作品の切った形や並べ方の面白さについて話したり、記述したりしている。 ＜発言・学習プリント（4）＞
共通事項	自分なりに気に入った表現になるように紙を切ったり、並べたりして絵に表す活動を通して、形や色、配置などの造形的な特徴を捉えて、自分なりのイメージをもつ。			